

としょかん かいちょう 図書館 小怪鳥 トリボン

つく 作：いしいしんじ 絵：かげやまなおこ

第6話 トリボンから「おめでとう」

としょかん す 図書館に住むトリボンは、6年生のみんなが大好きでした。

なにしろ、入学したての1年の頃からリクエストはいっぱいくれるし（トリボンのひな「コトリボン」のえさは本のリクエスト用紙です）、としょかん ほん 図書館の本をいっぱい借りては返し、また借りては返し、部屋のなかをいつも、風の吹きとおる雑木林みたいにきもちよく保っておいてくれます。

なにより、6年生には本が好きなのが多い。それだけでもう、トリボンたちは、6年生のことが好きで好きでたまりませんでした。

そんな6年生が、もうすぐ卒業をむかえます。

トリボンたちの心境はちょっぴり複雑です。おめでとうのきもち、がんばって、と送りだしてあげたいきもちも、もちろん大文字山くらい大きい。けれど、もう図書館で会えない切なさ、リクエストを書いてくる字が読めないさみしさも、こころのなかにじんわり湧いてくるのです。

「それに、あんな本好きの6年のみんなに、この一年のあいだ、自由に図書館に来てもらえなかった」

あめかぜ 雨風にさらされると危険なので（半分は本ですから）、としょかん 外へ出ないトリボンですが、とどけられる雑誌や新聞で、この一年なにがあったかは、おとなたちと同じくらい知っています。

だれ 誰もいない教室。ことばのない給食、足音のひびかないグラウンド。

そんななかでも、錦林小学校のみんなは、元気に学校にやってきました。マスクごしにでも笑、歌い、走り、それぞれの曜日に図書館にも来て、目を輝かせてページをめくってくれました。

「みんなに、なにか御礼をしたいな。図書館とか、本にまつわることで」

ほうかご 放課後の図書館で、トリボンは、なかまのトリボンたちに提案しました。メガネトリボン、リーゼントトリボン、筋肉ムキムキトリボンらが、ばさっ、ばさっ、ページのつばさを羽ばたかせて賛成します。

「ナニーカ、メモリーニ、ノコルモノーガ、イート、オモイマッス」

と、アメリカントリボンが巻き舌でいいました。

「メモリー、つまり、思い出。それいいね」

トリポンはうなずき、ホワイトボード
に「思い出」と書くと、
「たとえば、どんなのかなあ」
「エート、タトエバ、ロックンロール、
ト、ヨサコイ、ミックスシテ、オドルノ
ハ？」

トリポンは、ハア、とためいきをつき、
「それ、運動会でやったでしょ、『ロック
ンソーラン』」

つぎに、渋い和紙でできた長老のじい
トリポンが勢いよく手をあげ、

「6年の、みんなが、ニコニコ、笑顔になれると、よいのう」
「うんうん、それは大切だね」

トリポンはホワイトボードに「笑顔」と書いて、
「なにがいいかなあ」

「わしらみんなで、芝居をぶつのはどうじゃ。狂言なんか、いいぞ。マジ笑えるぞ」

トリポンはまた、ハアア、とためいきをつき、
「それ、もう去年やったって！ 『柿山伏』でしょ」

つづいて、本のページをスカートみたいに開いたアイドルトリポンが、長いまつげをパチパチま
たたかせながら、

「あのですねえ〜、6年生のみなさん、ひとりひとりに、大切なものを手作りして、お持ち帰りい
ただけたら、いいんじゃないかなあ〜、な〜んて思うんですけどお〜」
「お、いいねえ」

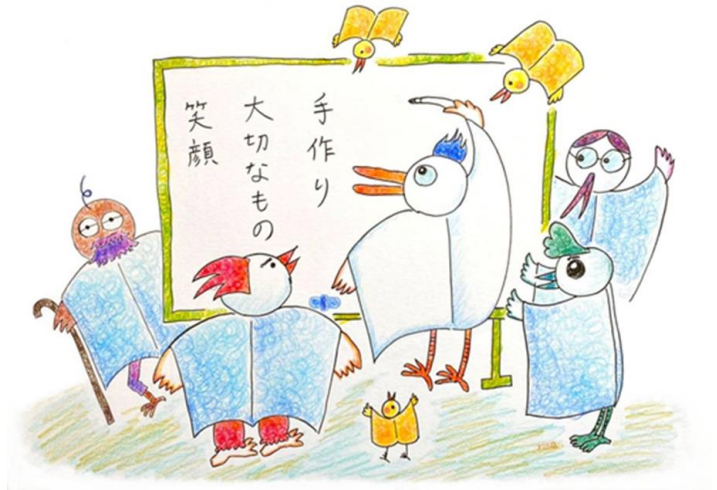
トリポンはホワイトボードにさらさら「大切なもの」「手作り」と書きながら、
「どんなものでもいいだろう」
「たとえば〜、こんなの、どうですかあ〜」

アイドルトリポンは目をきらきら輝かせ、
「カワイイ小箱のねっ、ふたをあけるんですっ。すると、なんとそこから、素敵なメロディーが流
れだすんですう〜！ ふんふふーん、ふふふふふふーん♪」

「やってる、それ、6年のみんな、今やってるとこ！ 『オルゴール作り』！」

トリポンはページのつばさでホワイトボードをバシバシ叩いていました。まわりに集まった小
さなコトリポンたちは、つばさを打ち合わせて笑っています。

まどからさっと明るいつ夕陽がさしました。同時にあたたかな風が吹き込んで、机の上のリクエスト
ト用紙と小さなコトリポンたちを、ふわりふわりと空中に舞いあげました。



こがねいろ はるかぜ の 黄金色の春風に乗って、コトリボンと用紙がいきりまじり、天井近くを楽しげに、あちらこちらへ飛び交っています。しばらく見あげていたトリボンたちは、はっと息をのみました。顔を合わせ、同時にうなずきます。
「うん、これでいこう！」



さんがつ あさ ねんせい げんき せいもん 三月のある朝、その6年生は、元気に正門をくぐりました。顔の下半分は、マスクごしなのでよく見えないけれど、元気かそうでないかは、その声からはっきりとわかります。
「おはよう」
「おはようございます！」
「おはよう、あったかいね」
「あ、おはよう！」

うわば かいだん ねんかん かいだん にゅうがく 上履きにはきかえ、階段をのぼります。6年間、のぼりおりしたこの階段。入学したてのうちは、登山みたいにでっかく、そびえ立ってみえたけれど、いまはもう、鴨川の土手を駆けあがるときみたいに、軽々とした足どりでのぼっていきます。あと何回、のぼれるんやろ。ふと浮かんだそんな考えを、頭を振ってふりはらい、6年生は、3階の廊下につきました。

ひと ひと 教室から廊下をはさんだ、窓際の壁の前。
「どうしたん」
こえ 声をかけると、

「あ、来てみ。こっちこっち」

ともだち てまね ひと 友達の手招きします。ランドセルをしょったまま、人だかりのすきまから、壁の前をのぞきます。小ぶりのポスターが貼られてあります。とても上手とはいえない。けれどもていねいな手書きの字で、こんなことが書かれてあります。

ねんせい 6年生の みなさんへ

そつ 卒ぎょう ほんとに おめでとな としよかん 図書館 いっぱい つか 使ってくれて ありがとな

これから ほん 本 いっぱいよんで たのしい チュー学生になってください

くうそう 空想の「空」を じゆうに とり 鳥みたいに と 飛びまわってください

としよかん 図書館も ほん 本も いつまでも みんなのなかまです ずっといっしょです

これからもよろしくね

ポスターのまわりを、なにか小さなものが、ぶきっちょに、ハタハタ羽ばたいています。

「^{とり}鳥だ」

「え、^{ほん}本なんちゃうん」

「ほら、これ、リクエストボックスにかいてあった」

^{ねんせい} 6年生は^{おおこえ}大声で、

「コトリボン！」

そうそう、とみんなうなずきます。コトリボン、ほんまにおったんや。^は羽ばたいているその^{つばさ}翼は、ぜんぶ、^{み おぼ}見覚えのある^{ほん}本です。^{にゅうがく}入学してから^{そつぎょう}卒業まで、^よ読んでもらったり、はじめて^{じぶん}自分で^か借りたり、おぼえたての^{かんじ}漢字を見ついたり、^{あそ}遊びも^{わす}忘れて^よ読みふけったり、ほんとうに、たくさんの^{ほん}本を、^{ねんせい}6年生のみんなは^よ読んできたのです。

「しろくまのパンツ」「おまえ うまそうだな」「ぼくのしっぽはどれ？」「わすれんぼうのサンタさん」「メアリー・アリス、いま、なんじ？」「スイミー」「しりとりのだいすきなおうさま」「そらまめくんのベッド」「きょだいな きょだいな」「にゃーご」「ともだちひきとりや」「しろい やさしい ぞうのはなし」「じごくの そうべえ」「はいしゃのチューせんせい」「どろぼうがっこう」「くものすおやぶん とりものちょう」「ぶたのたね」「はらぺこあおむし」「ずっとずっと だいすきだよ」「ジャイアント ジャムサンド」「オオカミのごちそう」「ともだちや」「シナの5にんきょうだい」「パパ、お月さまとって！」「もうぬげない」「せんたくかあちゃん」「こいぬをつれたかりうど」「ちきゅうをほる」「オニじゃないよ おにぎりだよ」「「ほんとあき」「ロメオとジュリエット」「そんごくうだいかつやく」「しごとば」「フレデリック」「すてきな三人ぐみ」「へっこきよめどん」「つくもがみ」「すすめ！ かいてんずし」「わたしとわたし」「メリークリスマス おおかみさん」「たこやきのたこさぶろう」「あいたくなっちゃったよ」「オニのサラリーマン」「じごく」「シニガミさん」「たなからぼたもち」「ざんねんないきもの^{じてん}事典」「うちゅうはきみのすぐそばに」「あきちゃった」「^{かいとう}怪盗クイーン」「はつてんじん」「かぜ ビューン」「ねずみのつきめくり」「たのきゅう」「アオバズクの^{もり}森」「^{かいとう}怪盗レッド」「きみがしらない ひみつの三人」「^{ゆうき}勇気」「デルトラクエスト」「それしかないわけないでしょう」

ほかに、いっぱい！ とても^{かぞ}数えきれないほどのコトリボンが、^{つぎ}次から^{つぎ}次へと^と飛びあがり、^{ねんせい}6年生たちのまわりを^と飛び^{まじ}交っています。それだけでなく、トリボン、じいトリボンやアイドルトリボンたちもいっしょです。^{ほん}本が^は羽ばたき、^ま巻きおこる^{かぜ}風に、^{ねん}6年のみんな、うれしげに^め目を^{ほそ}細めています。

ばさっ、ばさっ、ばさっ！

^{いちわ}一羽のコトリボンが、^{ちからづよ}力強くはばたき、^あ開けはなした^{まど}窓から^{こうしや}校舎の^{そと}外へ^と飛びだしました。また^{いちわ}一羽、さらにもう^{いちわ}一羽。コトリボン、トリボンたちは大きく^{おお}翼^{つばさ}をひろげて、^ま真^{さお}っ^{はる}青な^{そら}春の空へ

つぎつぎに羽ばたいていきます。そして、はじめて味わう、ほんものの空の広さをたしかめるように、一度、二度、空中に輪をえがくと、いっそう力強く翼を羽ばたかせ、春のやわらかな陽ざしのなかへ、一羽ずつ、ふわりふわりと溶けこんでいきました。

6年生のみんな、窓にとりすがって見あげています。

トリボンたちは、どこへいったのでしょうか。みんなの家？ それとも、あたらしく通う中学校の図書館？

さあ、どこでしょうね。ただひとつ、まちがないことがあります。トリボン、本たちは、いつまでもみんなの胸のなかにいます。錦林小学校であった、一冊いっさつの本のおもしろさは、ずっとずっと、いつでもみんなといっしょです。

これから、また新しい、おもしろい本とであったら、少しのあいだ目をつぶり、胸の奥にじっと耳をかたむけてみてください。そのうちきっと、パサパサ、パサパサ、ふしぎな羽ばたきの音がきこえてきます。

みんなの胸のトリボンが、新しい本を歓迎し、ここをこめて拍手をおくっているのです。

もうすぐ卒業、おめでとう！ トリボンと図書館のぜんぶの本より



せいさく としよかんかつようぶかい
(制作；図書館活用部会)